

君津市「文化のまちづくり市税1%支援事業」

「新たな貞元地区文化の創造」

ていげん 貞元まちづくり

No 12

発行 平成 26年 3月 31日

編集 貞元地域まちづくり推進委員会

君津市上湯江 1287-1

貞元コミュニティセンター内

TEL 0439-52-8030

25年度 活動報告

今年度は、6年間のまとめの段階と位置づけ、新規事業として「散策路マップの作成、案内看板の設置」を計画。継続事業として「地域防災の行動指針の作成」「緑のカーテンづくり」「江川花の道ほか散策路の整備」等を実施してまいりました。 *年度前半は、会報No11参照

散策路マップの作成・看板の設置

散策コース、見どころの選定等のワークショップを2回、千葉大学大学院（以下大学院という）役員による独自調査を踏まえ「貞元花の道散歩マップ」の原案（会報11号で紹介）に基づき、案内看板、見どころ板を作製しました。

案内看板を手づくりしようと思気込みは良かったが、三幣さん持参のルーターという器具を使用することがないため思うようにならず初日で断念しかかりました。そこへ、工業高校で機械の先生をされた小林一臣さんが助け舟。

文字も書きルーターで見事に彫り、30数枚の案内看板をなんと2日掛かりで一気に仕上げてしまいました。



三幣さん（写真左）が持つルーター

その後、3回にわたり案内看板21個の組立てと見どころ板6個を作製。3月2日、大学院と協働で設置したが、生憎雨天のため三保の稲荷コース4基のみに止め、3月19日残りを設置完了しました。



最初に設置した案内看板を囲んで



学生が穴掘り、建込みの体験

総合案内板は、味楽園さだもと店の西側駐車場入口にある同店の看板裏面を利用して暫定的に取付けました。将来は、同店の事業計画との整合が図られた時点で、案内板が目立つ屋外売り場付近に設置する計画です。



総合案内板

地域防災の行動指針の作成

災害対応はまず「自分の身は自分で守る」ことが大事と考え、地域防災の行動指針は君津市で出されている防災ハンドブックを利用させていただき、

当委員会としては、まず、個人が災害に遭われたときに役立つ常時携帯できるミニハンドブックを防災士でもある山中政人さんが作成しました。

ハンドブックの一部を紹介します。

外出先で地震にあったときの対処方法5か条

- 1 揺れてる最中は靴、近くのもので頭を保護
- 2 揺れが収まったら、周囲の状況を確認
- 3 自分、あるいは一緒にいる人がけがをしていたら、大声で助けを求める
- 4 余震に気をつけながら、屋外へ脱出
- 5 家族や友人と連絡をとり、無事を伝える。電話回線が混んでいる時は、災害用伝言ダイヤル「171」などを利用

オフィスで仕事中は
コピー機が故障に！
裏つ先に机の下にも
ぐるべし

エレベーターはすぐ
お降り
すべての行先階ボタ
ンを押し、最初に乗
止し丸階で降りて、
非常階段で下へ降り
るべし

コンビニ・スー
パー・百貨店では、
棚からはなれる
販売棚の転倒、商品
の落下、ガラスの破
損から身を守るべし

店舗側では屋根が遭
えてもあわてるな
ショーウィンドウか
らはなれ、壁伝いに
階段まで歩き、脱出
すべし。じきに非常
電報が作動する。

飲食店では、火災に
まきこまれるな
火を使用しているの
で火災の可能性が高
い。揺れが収まった
ら足元の落下物に注
意して屋外へ脱出す
るべし

劇場・ホールでは、
照明や天井パネルの
落下に注意
構造的に天井がはが
れやすく、頭上から
の落下物に注意す
るべし

地下鉄は、勝手に脱
出すると感電の恐れ
あり
線路上の高圧電線に
触れないよう、乗務
員の指示に従うべし

年度報告会

3月2日貞元コミセンに於いて行ないました。

当委員会は、各部会、貞元餅の状況報告。

大学院は、散策路マップの作成、案内看板の設置を中心にスライドを用いて報告しました。

その他、まちづくりの事例として、アドバイザーの齊藤先生が中心となって進めた大船渡市細浦地区の復興まちづくりについて、現地調査、ワークショップ、まちづくりの提案の概要について、以下のとおり報告されました。

「海を感じるまち・細浦」復興構想

コンセプト

「海を五感で体験できるまち」

- ・ 深い水槽にわかめやホタテ、牡蠣がつるしてある⇒触れる
- ・ 浅い水槽に貝や小魚など海の生物がはなしてある⇒触れる
- ・ 護岸の一面が階段状となっていて、海に入ることができる⇒足海（足湯でなく）
- ・ 漁師体験（漁師さんに漁に連れて行ってもらう、見学や作業体験）⇒来訪者増加
⇒海産物などの販売促進

- ① 漁業・商業・観光のベストミックスのまち
- ② その他観光（遊覧船、箱根山ハイキング）
碓石海岸、小細浦観光の玄関口
⇒特産物開発

「浜の駅」構想

求められる機能

- ① 商業施設（飲食・物流）
 - 生鮮食料品⇔生鮮食料品は移転店任せ
 - 物販施設（海産物特産品、土産物、農産物、農産物加工品）
 - 飲食施設（ドライバーが立ち寄れる店）
 - 運営会社直営店⇔商店街経営者による商店街再建）
- ② 観光案内所（地域観光の案内所、遊覧船、漁業体験の受付）
- ③ 駐車場（何台分）
- ④ 多目的広場・公園（ベンチ、四阿、遊具、お祭り広場）
- ⑤ トイレ
- ⑥ 防災施設（防災倉庫、ヘリポート）

26年度計画

平成26年度は、これまでの総仕上げとして、過去6年間をPDCA（計画、実施、点検、改善）に基づいて評価した結果、以下のとおり事業を進めます。

1. 新規事業

「7年間の歩み」の冊子を大学院と協働して作成、関係する公共団体、関心のある地域、団体等に配布、協働による地域活性化や特色のあるまちづくりの参考資料として提供します。

2. 継続事業

- 1) 「散策路マップの検証・充実」は、ソフト面の充実を図るため検証を行います。委員会、大学院によるモニターツアーと交流会の実施。よりよいマップづくりを行い、健康都市君津に寄与する歩きたくなるような散策路を目指します。
- 2) 「江川花の道ほか散策路の拡充・保全」は、江川右岸にヒガン花を拡充することにより、さらに散策路のビューポイントにすることを図ります。